
2008年度決算説明会

2009年5月12日



-
- I. 2008年度決算及び2009年度見通し
 - II. 中長期事業環境について
 - III. 経営理念と事業方針

I . 2008年度決算及び 2009年度見通し

連結業績

(単位:百万円)

	07年度	08年度	09年度 見通し	差異 08-07	差異 09-08
売上高	44,904	41,042	27,400	(×)3,862	(×)13,642
営業利益	13,752	7,080	700	(×)6,672	(×)6,380
経常利益	13,312	6,590	100	(×)6,722	(×)6,490
当期純利益	7,783	4,102	200	(×)3,681	(×)3,902
1株あたりの 当期純利益(円)	128.28	67.61	3.30		
配当金 (円/株)	28.00	15.00	(予定) 5.00		

セグメント別売上高

(単位:百万円)

	07年度	08年度	09年度 見通し	差異 08-07	差異 09-08
金属チタン事業	34,480	30,923	18,000	(×)3,557	(×)12,923
機能化学品事業	8,786	7,670	8,100	(×)1,116	(○)430
その他事業	1,637	2,448	1,300	(○)811	(×)1,148
合計	44,904	41,042	27,400	(×)3,862	(×)13,642

セグメント別営業利益

(単位:百万円)

	07年度	08年度	09年度 見通し	差異 08-07	差異 09-08
金属チタン事業	13,793	8,214	600	(×)5,579	(×)7,614
機能化学品事業	2,010	1,176	2,200	(×)834	(○)1,024
その他事業	106	191	80	(○)85	(×)111
消去又は全社	△2,157	△2,501	△2,180	(×)344	(○)321
合計	13,752	7,080	700	(×)6,672	(×)6,380

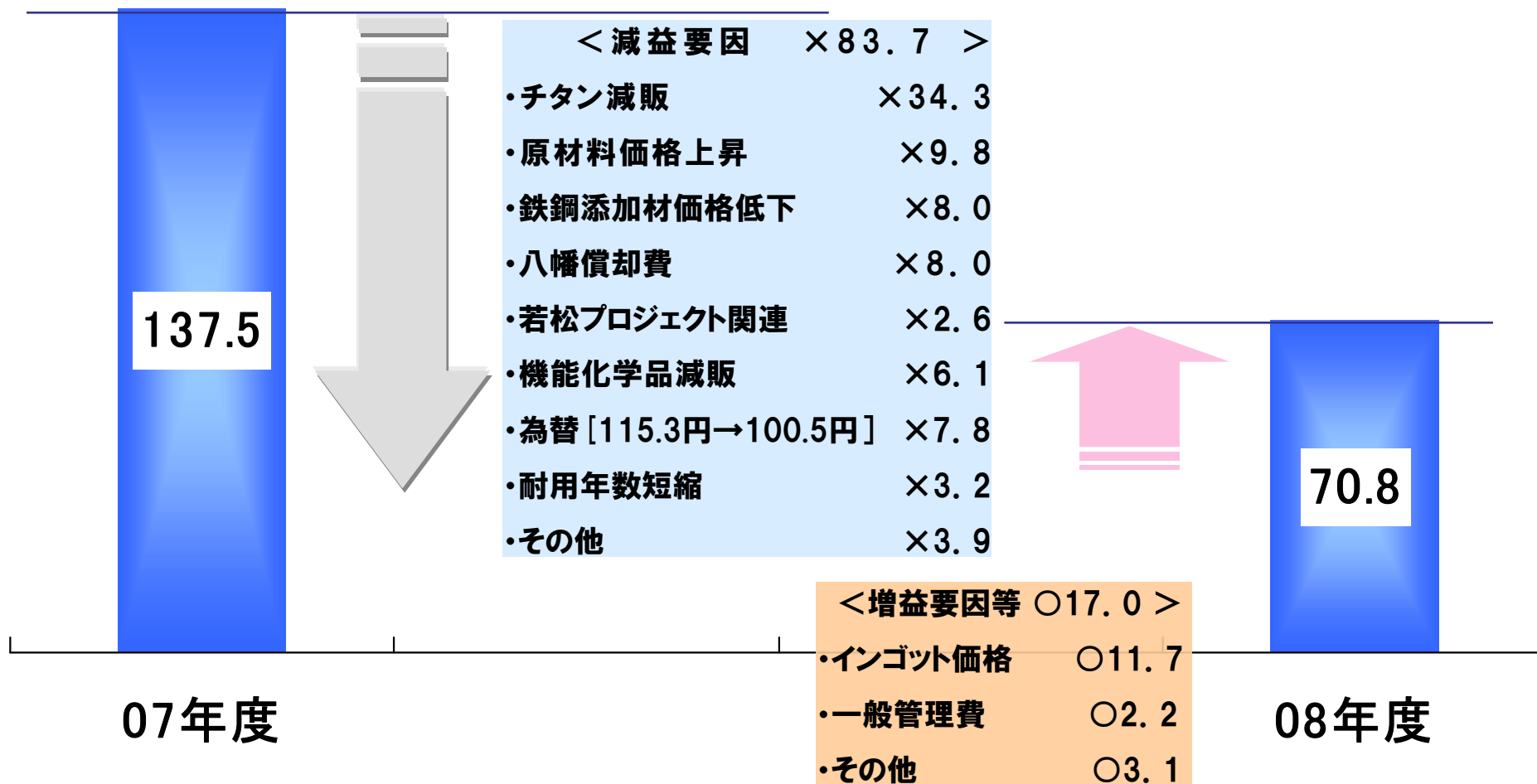
チタン生産量及び販売量

(単位:トン)

	07年度	08年度	09年度 見通し	差異 08-07	差異 09-08
スポンジ生産量	14,176	13,746	8,620	△430	△5,126
スポンジ販売量	5,407	4,698	4,666	△709	△32
展伸材向け	2,980	2,744	3,151	△236	407
鉄鋼添加材向け	2,427	1,954	1,515	△473	△439
インゴット販売量	9,132	9,379	6,509	247	△2,870
販売量合計	14,539	14,077	11,175	△462	△2,902
内数 外部原料出	1,042	2,675	1,900	1,633	△775

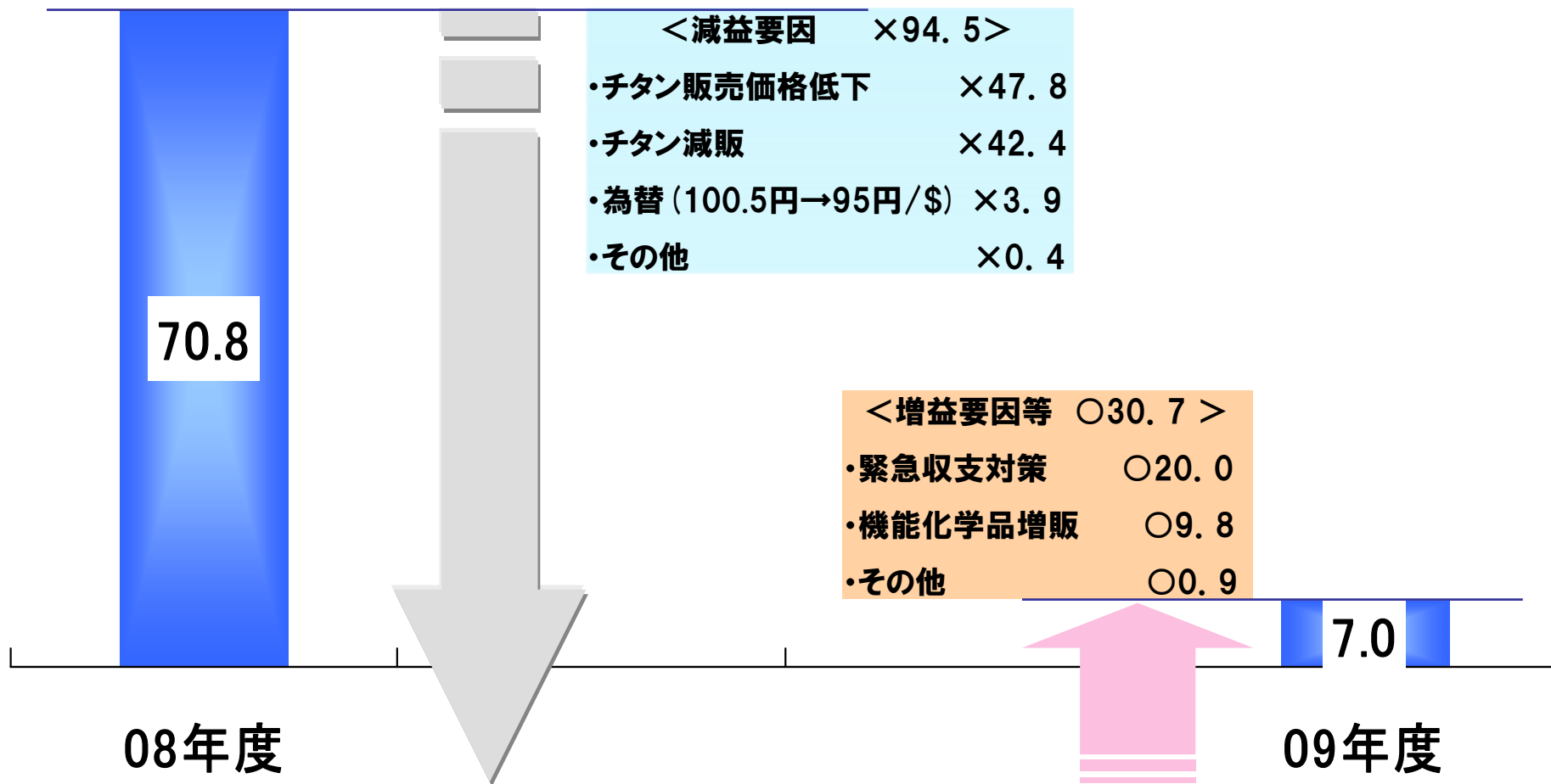
営業利益 08年度 対07年度

(単位:億円)



営業利益 09年度 対08年度

(単位:億円)



貸借対照表

(単位:億円)

	07年度	08年度	09年度 見通し	08-07 差異	差異内訳
(資産の部)					
流動資産	211	257	198	46	現預金+45
固定資産	334	538	695	204	投資+252 償却△41
資産の部合計	545	795	893	250	
(負債の部)					
借入金	90	355	456	265	
その他負債	103	62	60	△41	未払法人税△27
(純資産合計)	352	378	377	26	当期純利益+41 配当△15
負債・純資産合計	545	795	893	250	

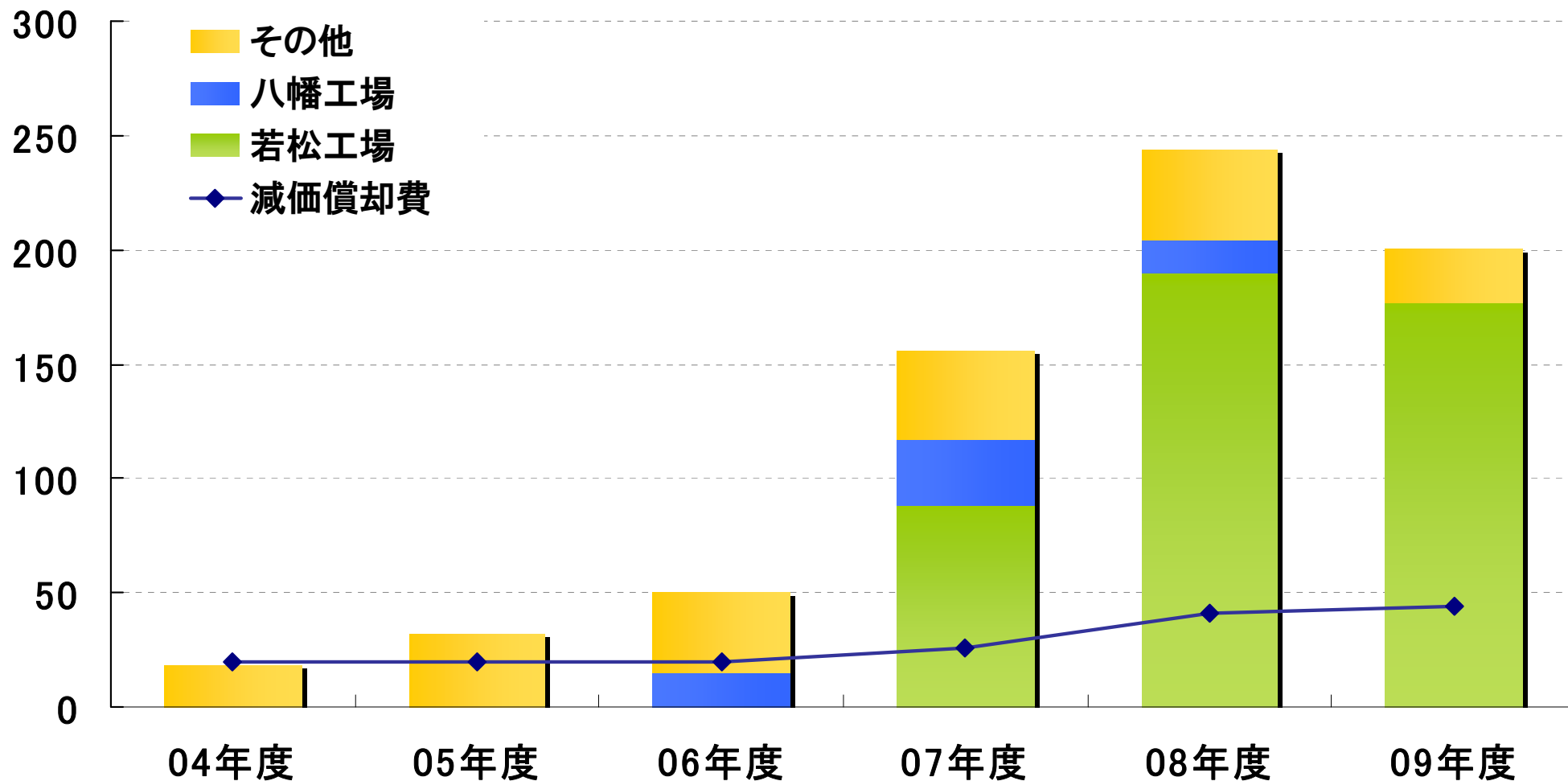
キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	07年度	08年度	09年度見通し
税前当期純利益	129	70	4
償却費	26	41	44
その他	△62	△76	16
営業計	93	35	64
有形固定資産の取得	△156	△244	△200
その他	—	6	△7
投資計	△156	△238	△207
借入金増減	69	265	101
配当支払	△23	△15	△3
その他	—	△2	—
財務計	46	248	98
差引バランス	△17	45	△45

設備投資額と減価償却費

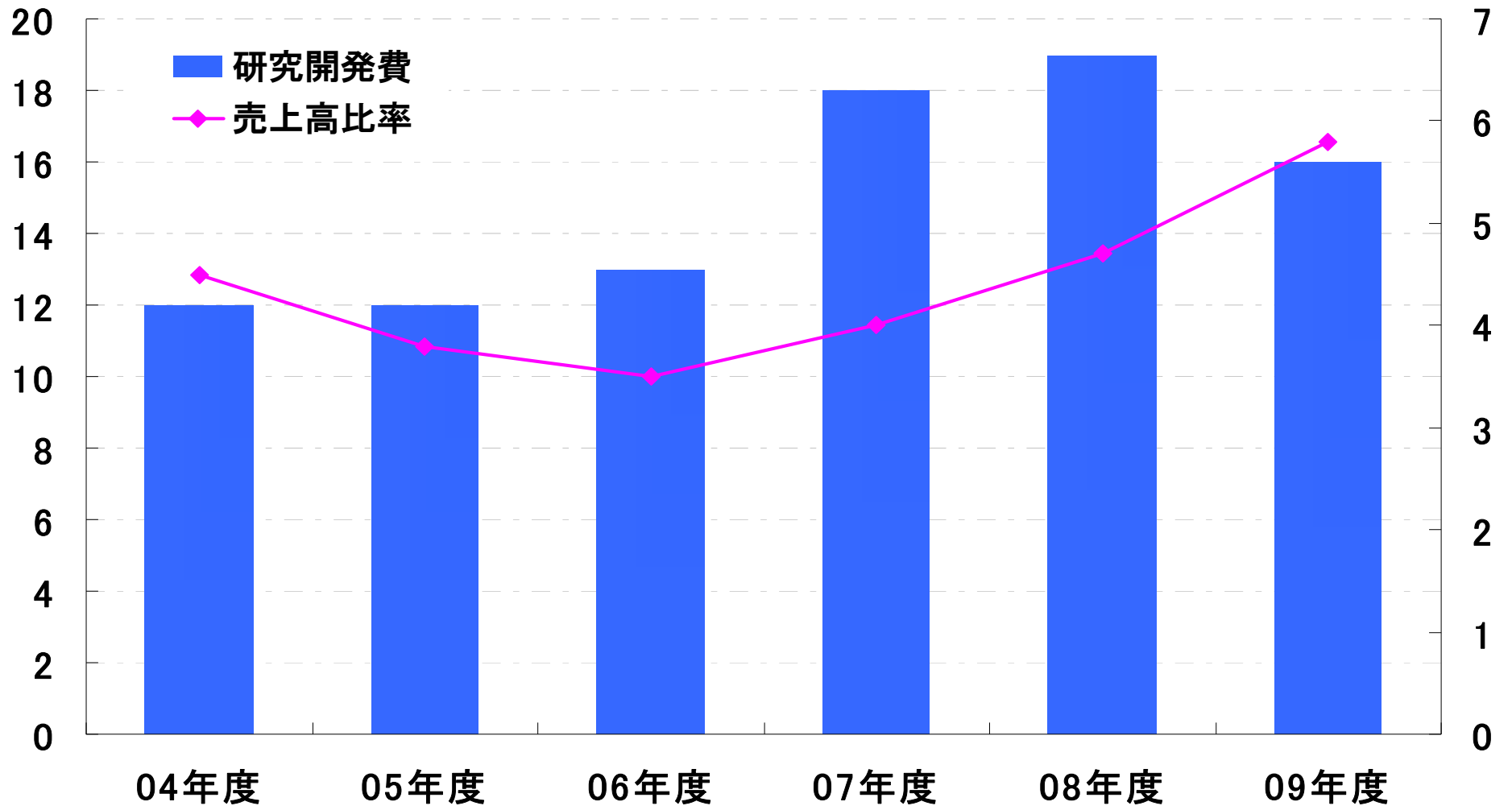
(単位:億円)



研究開発費

(単位: 億円)

(%)



Ⅱ.中長期事業環境について

①チタン事業

②触媒事業

③ポリシリコン事業

チタンの事業環境

足元は需給調整に時間を要すが、将来的に需要は拡大

短期

- 航空機用需要の減少。プラント関連需要の減退。
- スクラップの価格低下による使用比率向上。
- ボーイングが大量にチタン在庫保有。
- サプライチェーンが長く、在庫調整に時間を要す。

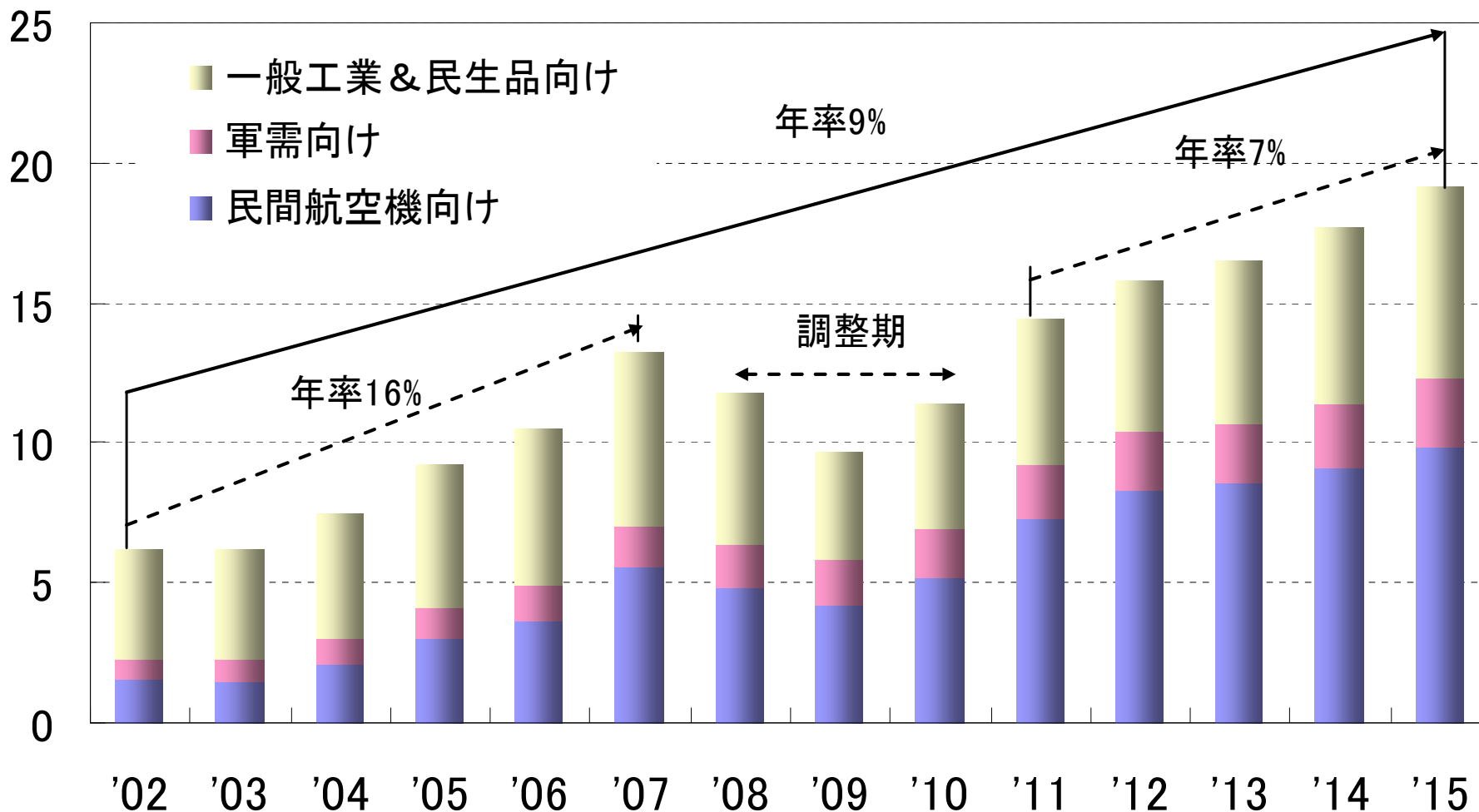
中長期

- 航空機の軽量化基調は不変。
- 非航空機分野におけるチタン優位性による伸長。

世界の展伸材用スポンジ需要予測

(09.4 当社推定)

(単位: 万トン/年)

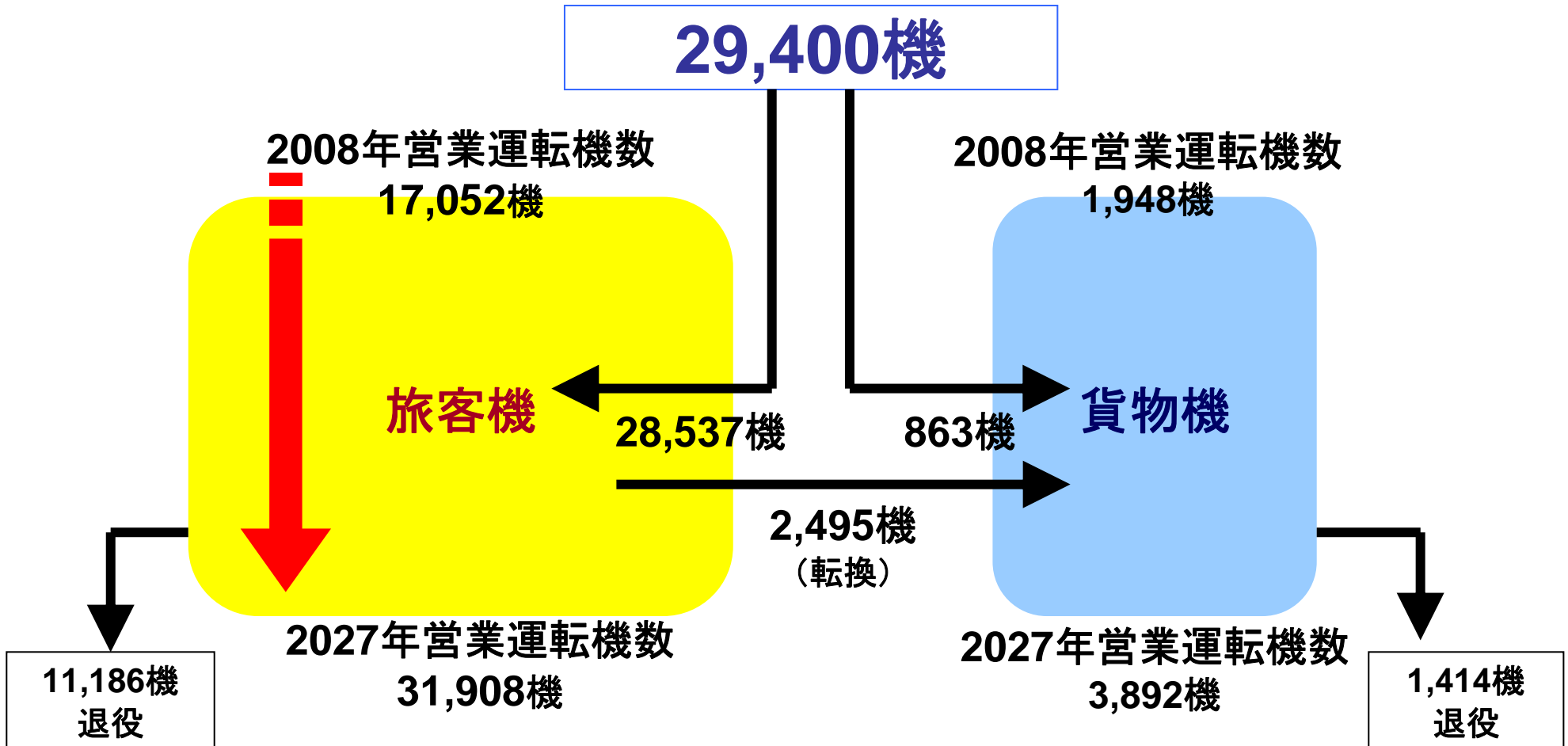


民間航空機 機種別チタン使用量 (Buyweight)

	機種 A: Airbus B: Boeing	1機当りの 使用量(t)	受注残(機数) 出典: 民間航空機関連データ集 2009.2末
従来 機種	B737	18	2,237
	B747,757,767	8~48	180
	A320	12	1,881
	A300,318,319,321,330,340	12~22	1,094
		小計	5,378
今後の 主力 機種	B777	80	359
	B787	136	878
	A380	146	187
	A350	101	483
		小計	1,907
		合計	7,264



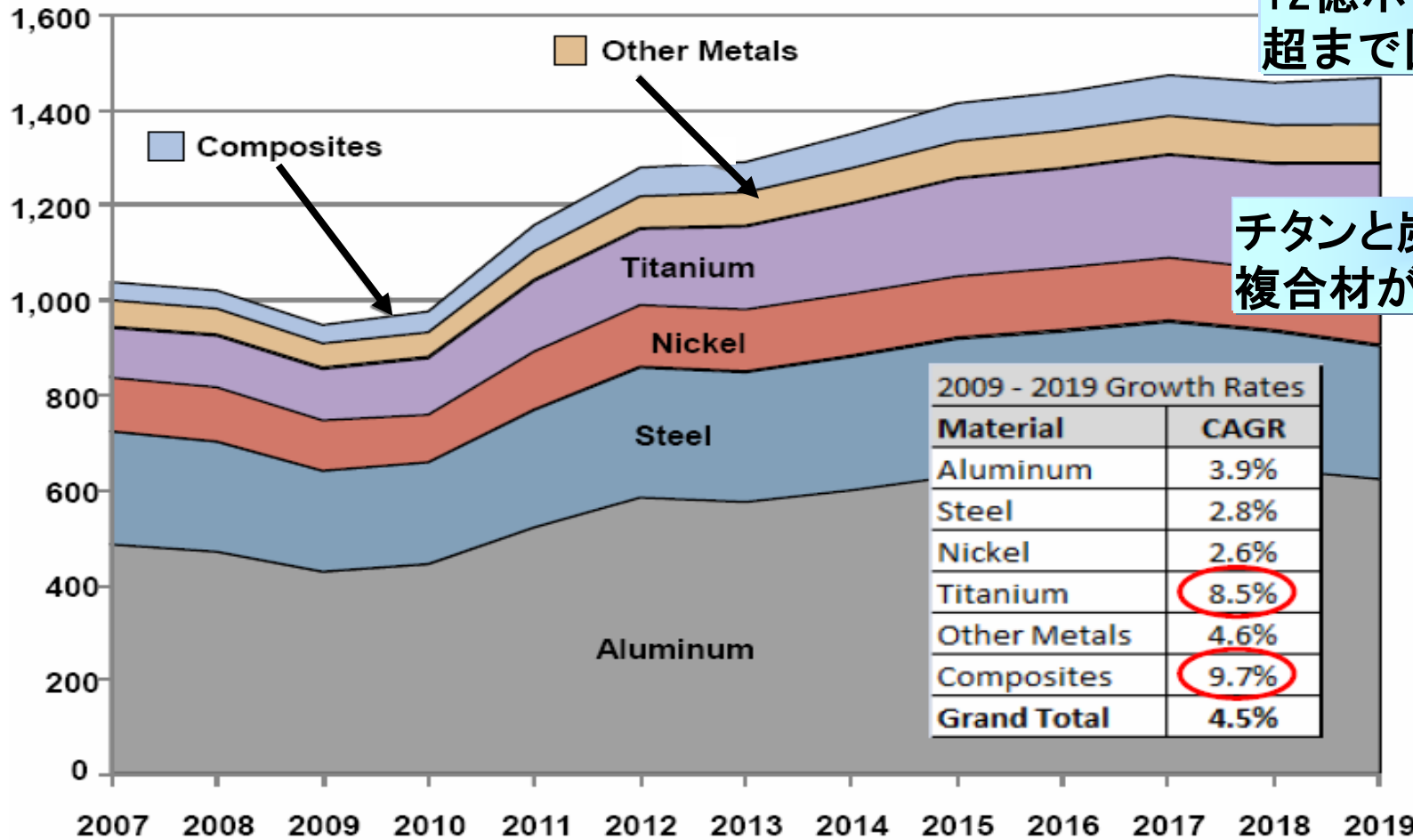
今後20年間で新たに必要とされる航空機



(出典: Boeing Current outlook summary 2008.9)

航空機用材料の需要予測

Aerospace Buy Weight - All Materials*
(M Lbs)



需要は2012年までに
12億ポンド (54万t)
超まで回復。

チタンと炭素繊維
複合材が高成長。

2009 - 2019 Growth Rates	
Material	CAGR
Aluminum	3.9%
Steel	2.8%
Nickel	2.6%
Titanium	8.5%
Other Metals	4.6%
Composites	9.7%
Grand Total	4.5%

* Assumes 12 month lag between aircraft production and material demand from mill

(出典: Aerostrategy社2009..4)

一般工業向け

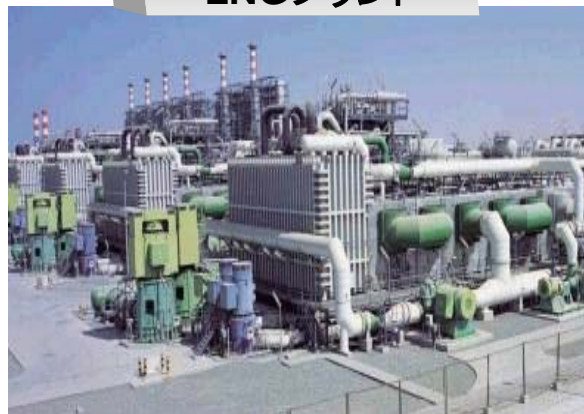
(出典:レアメタルハンドブック及び日本チタン協会)

対象	使用量(t)	備考
海水淡水化プラント	約200~300	
LNGプラント	約300~400	
原子力発電所	約200~250	100万KW級
カセイソーダ電解プラント	約300~500	年産100万トン規模
テレフタル酸プラント	約30~50	年産10万トン規模
大型建築物の屋根	約5~50	九州国立博物館、浅草寺宝蔵門 等

海水淡水化プラント



LNGプラント



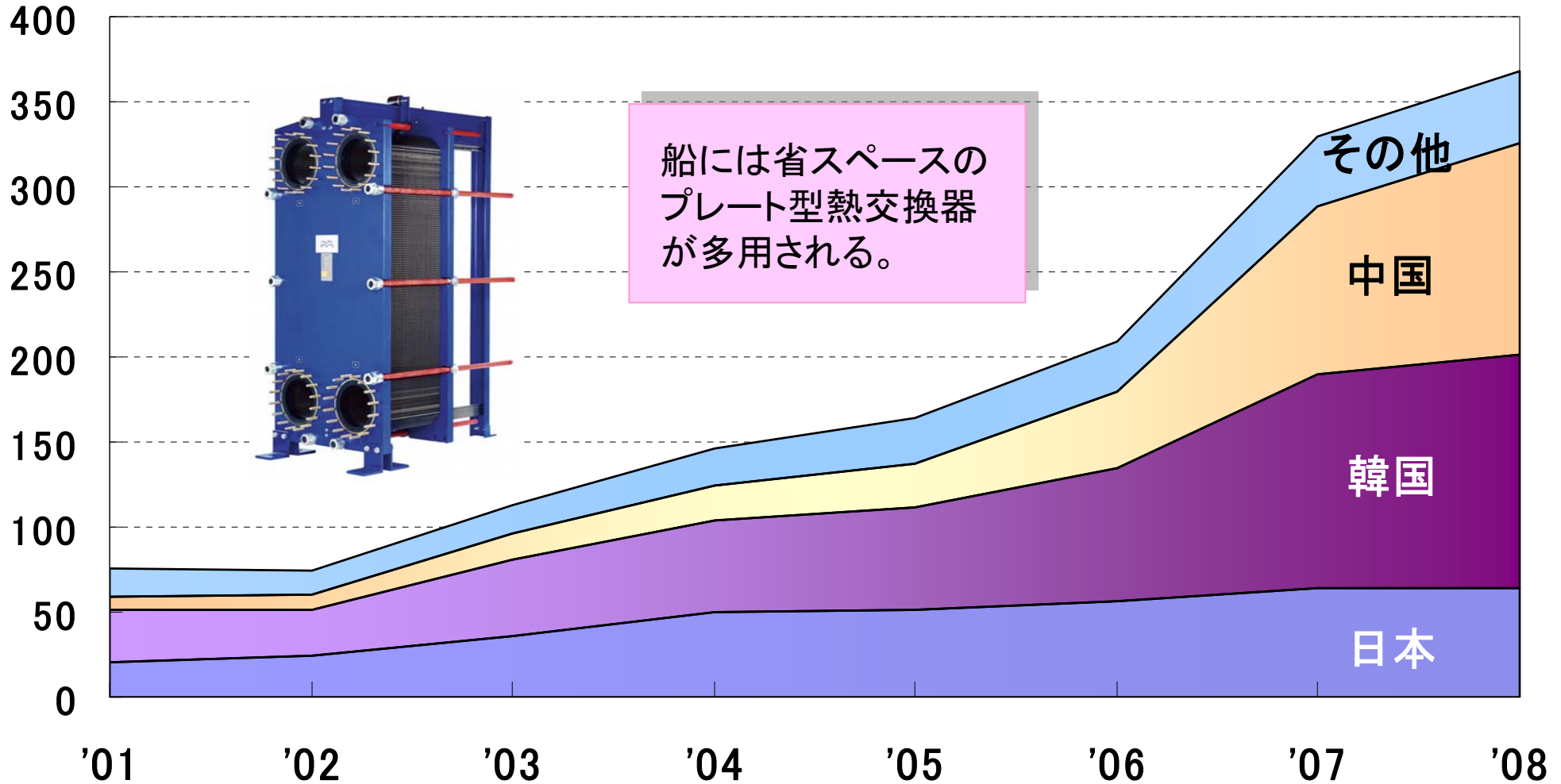
屋根(浅草寺宝蔵門)



世界主要造船国別受注残の推移

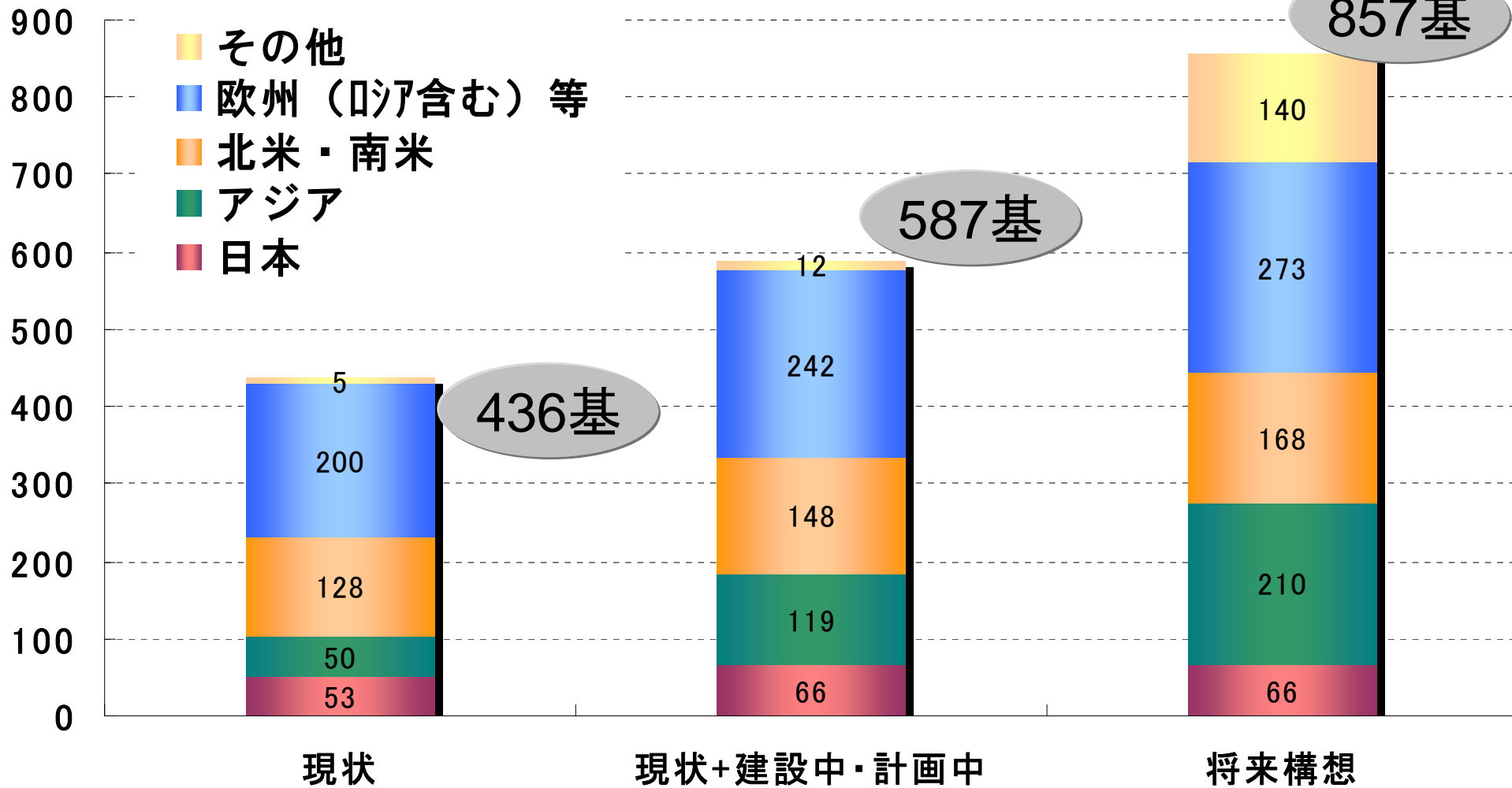
(単位: 百万総トン/年)

(出典: 日本造船工業会統計資料2009.3)



原子力発電の計画

(単位: 基数)



(出典: 世界原子力協会(WNA)2008.12現在のデータより作成)

触媒の事業環境

● 自動車/住宅産業低迷。

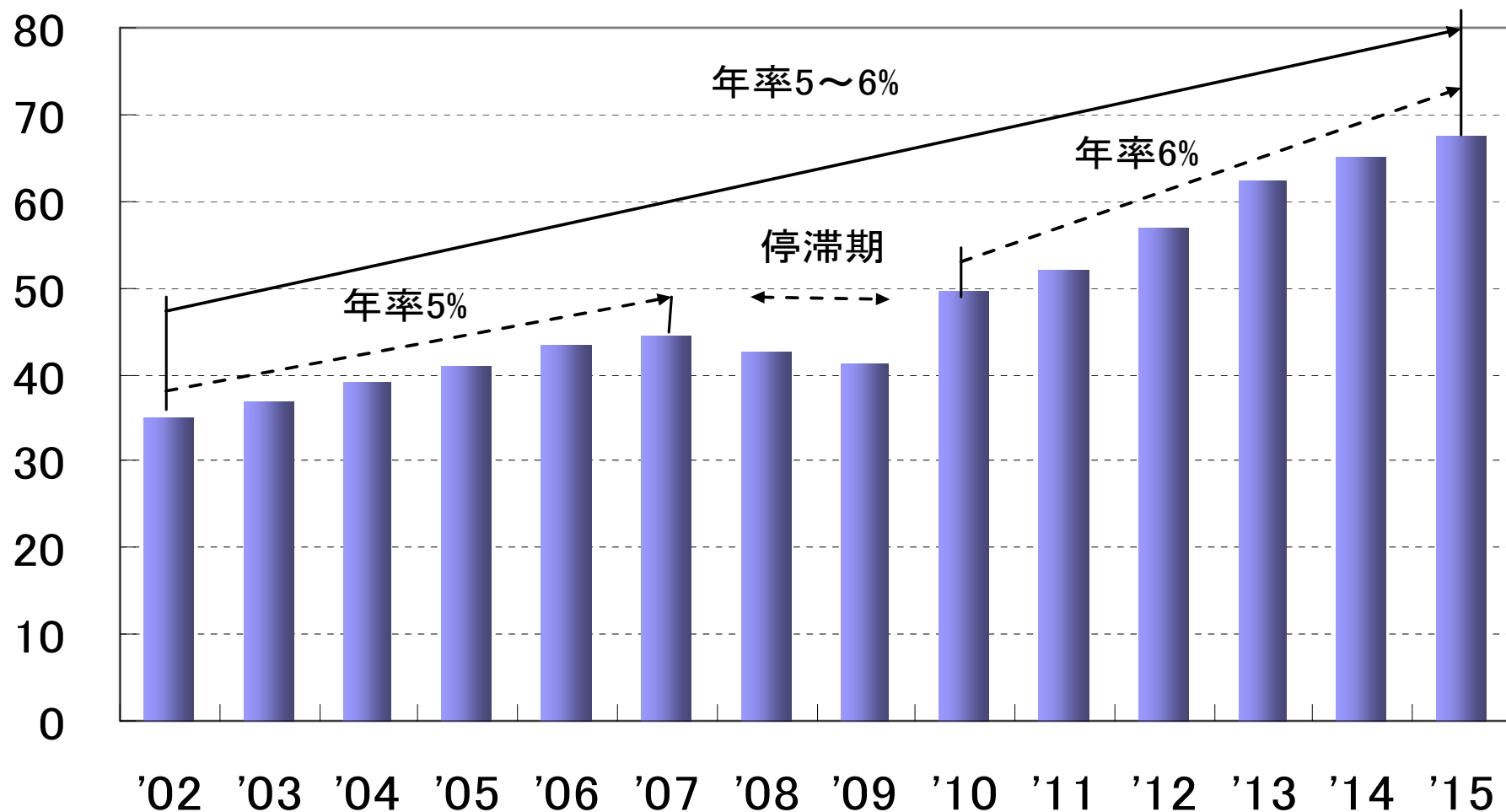
足元ポリプロピレン(PP)需要減。

● PPの製品特性から2010～2015年には、需要の伸び率は約6%/年に回復の見込み。

世界のポリプロピレン需要予測

(09.4 当社推定)

(単位:百万トン/年)



ポリプロピレンの特長

- 耐摩耗性に優れ、耐熱性がある。
- 絶縁性、耐水性、耐薬品性に優れる。
- 高機能樹脂であるエンジニアリングプラスチック[※]に近い特性を有す。
- 比重が、汎用樹脂中最も軽い。
- リサイクルし易い。

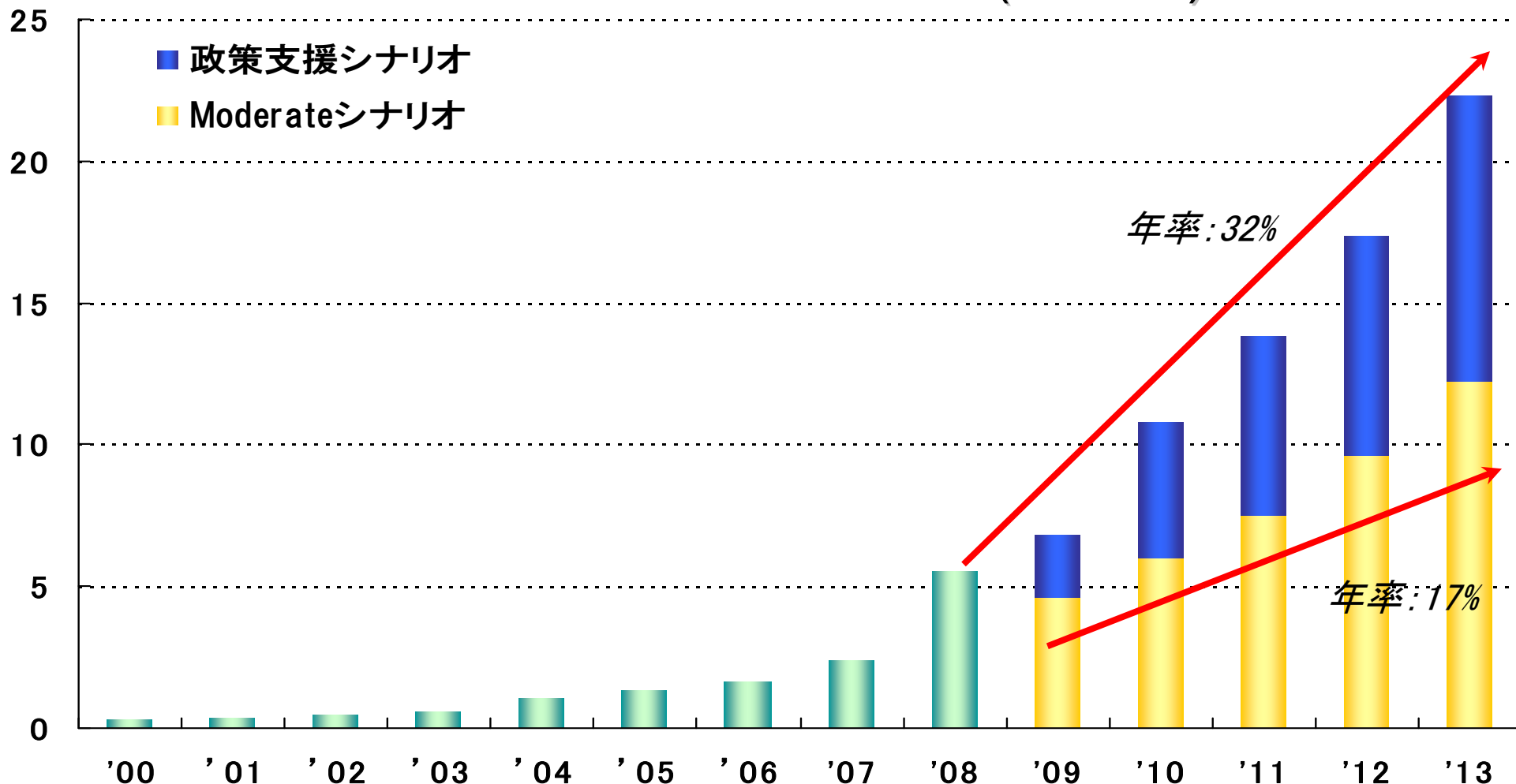
※ 合成樹脂の中で構造材又は耐磨耗、耐食、電気絶縁性を備え、機械部品材として適したもの。ポリイミド、ポリカーボネート等

ポリシリコンの事業環境

(出典: European Photovoltaic Industry Association)

(単位: GW/年)

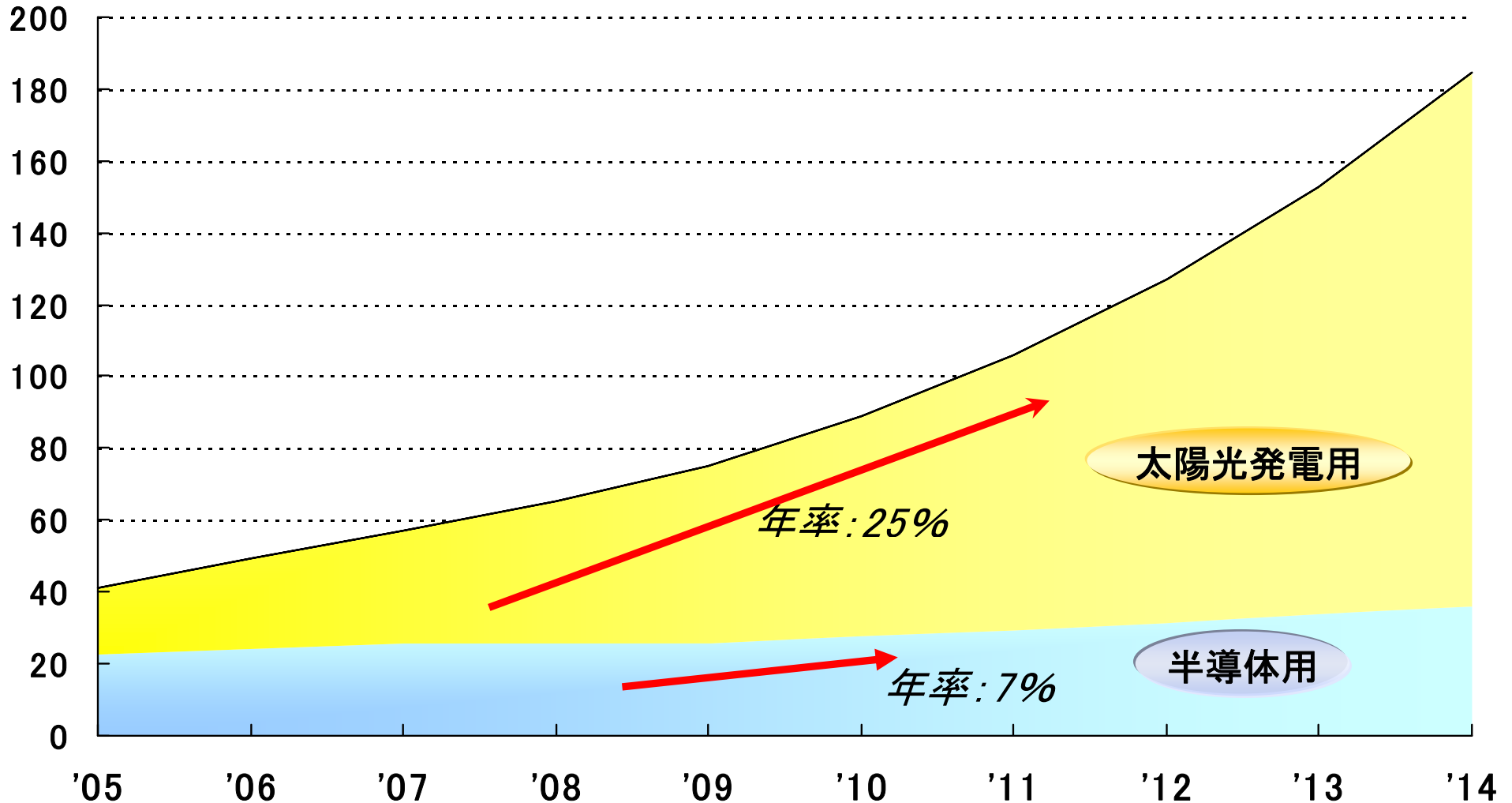
太陽電池年間導入量予測(全世界)



ポリシリコンの需要予測(全世界)

(09.4 当社推定)

(単位:千トン/年)



Ⅲ. 経営理念と事業方針

経営理念

私たち 東邦チタニウムグループは
地球に優しいチタンの限りない可能性を追い求め
チタンを中心とした製品をつくり
提供し続けることで社会に貢献します

- ◆顧客、取引先の立場を尊重し
誠意をもって共生できる関係を築きます
- ◆人をつくり 育て 社員一人一人が目標を共有し
自己実現することを目指します
- ◆誠実さと謙虚さをもって地球環境と地域社会に貢献します
- ◆これらを実現することにより企業価値を高めます

地球環境への貢献

地球環境に貢献する当社製品群 (チタン・触媒・ポリシリコン)

- 航空機の軽量化(チタン)
- 自動車の軽量化(ポリプロピレン)
- 地球環境に貢献する各種大型プラントへの適用
- 太陽光発電による温暖化抑制

事業方針

供給力を質・量共に拡充していく。

①骨太な事業構造の構築

- 品質と効率の両立

生産性、コスト競争力向上

- CS(顧客満足)の向上

②フレキシブルな事業運営

- 主体的販売体制の構築

- マーケットリサーチ力向上



若松工場(スポンジチタン)

- 建設は予定通り、2010年4月稼動開始予定
- 世界で最も生産性の高い工場を目指す



2009年3月19日撮影



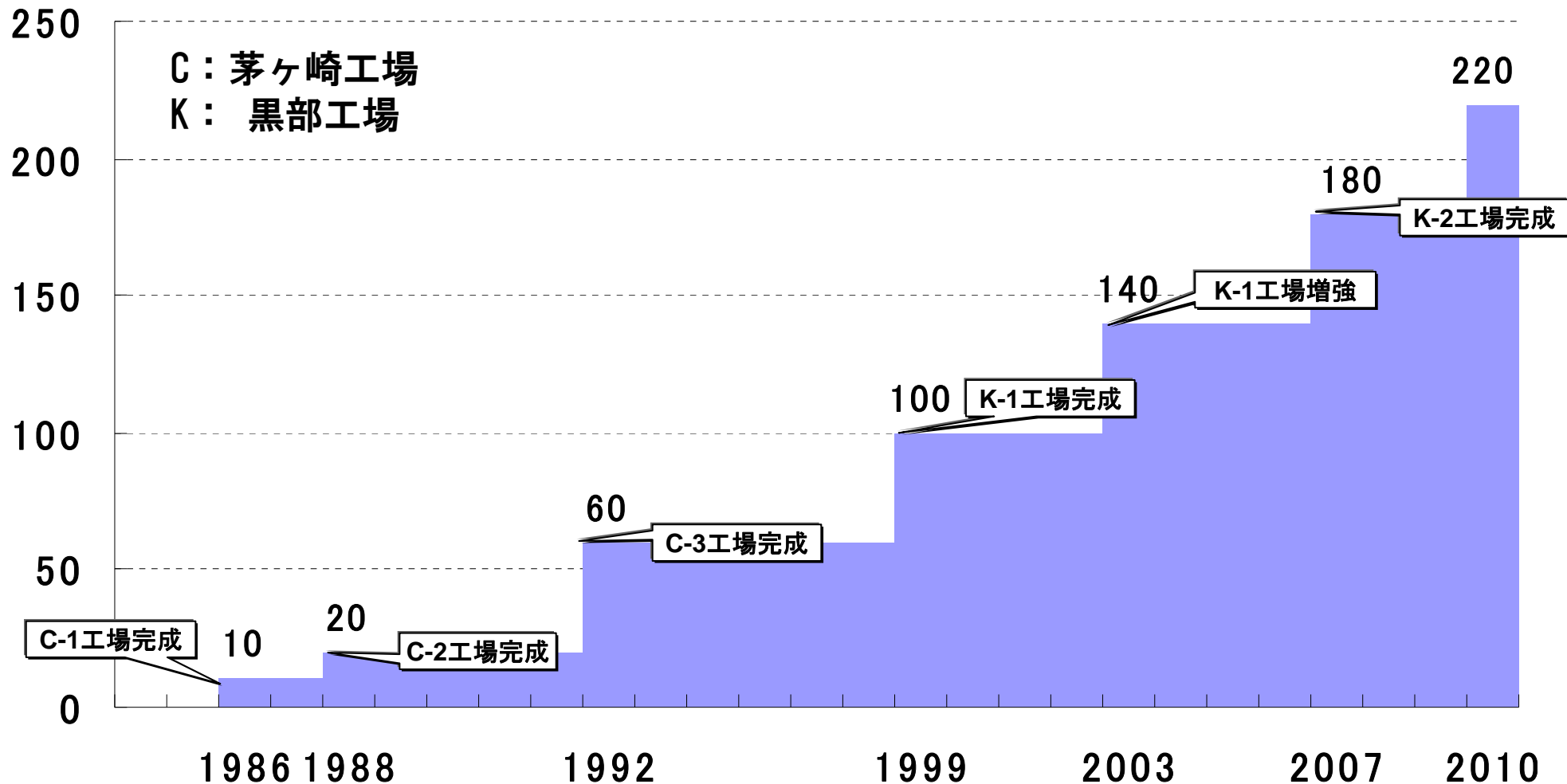
八幡工場(チタンインゴット)

- 2008年4月稼動
- 世界最大級の能力を有する大型EB炉
- 今後チタンリサイクルに貢献



THC触媒生産能力推移(1986年～)

(単位:トン/年)



太陽光発電用ポリシリコン: 事業化へ始動

- 新日本ソーラーシリコン(株)
出資比率: チツソ 50% 日鉱金属 30% 当社 20%
- 鹿島臨海工業地帯に工場建設開始
- 太陽光発電の普及と地球温暖化対策の推進に貢献

世界最強のチタン総合メーカーを目指す

<http://www.toho-titanium.co.jp/index.html>



ご清聴ありがとうございました。

本資料に関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、本日決算説明会日時点で入手可能な情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

